2026年
9月の活動報告

Seibo
Feeding the Future

概要

2026年9月、せいぼは学校給食プログラムを安定して継続するための仕組みづくりに力を入れました。
リクニ・パーラでの給食提供に加え、正確な記録管理、小麦粉の安全な保管、スタッフ研修、衛生管理、新たな調理場の整備にも取り組みました。
これらの活動は、日々の給食提供だけでなく、学校が食料を適切に管理し、説明責任を果たし、子どもたちに安全に食事を提供し続けるための実践的な基盤づくりにもつながっています。



チグワジャ（Chigwaja）幼稚園で、調理スタッフが出来たてのリクニ・パーラを提供しています。

9月の概要

- マラウイ全体で276,698食を提供
- 20,847人の子どもが在籍
- 18,197人の子どもが出席し、出席率は87.3%
- ムジンバ（Mzimba）で239,668食を提供
- ブランタイヤ（Blantyre）で37,030食を提供

プログラム概要

1) 出席と学習を支える食事

Chigwaチグワジャ（Chigwaja）幼稚園では、子どもたちに温かいリクニ・パーラが継続して提供されています。スタッフによると、朝食が提供されることで、食料不足に悩む家庭でも子どもを登園させやすくなっています。子どもたちは園で食事をとり、授業を受け、友達と交流することができています。

園児の一人であるエマニュエル（Emmanuel）は、このプログラムが自分にとってどのような存在なのかを、次のように話しています。

「私は毎日学校に来ています！ 勉強したり、友達と遊んだり、おいしいおかゆを食べたりできて、とても嬉しいです。」

– エマニュエル（Emmanuel）、チグワジャ（Chigwaja）幼稚園



チグワジャ（Chigwaja）幼稚園。
子供たちがみんなで一緒に温かい食事を食べています。



せいぼの学校給食担当者が、チグワジャ（Chigwaja）幼稚園の委員会とともに、
出席状況や給食の記録を確認しています。

2）説明責任と地域の主体性を高める取り組み

せいぼの学校給食担当者は、チグワジャ（Chigwaja）幼稚園の委員会に対して、出席状況や給食に関する情報を正確に記録する方法を説明し、記録管理を支援しました。正確な記録を残すことで、学校は給食プログラムの実施状況を把握し、必要な食料が対象となる子どもたちにきちんと届いているかを確認できます。
ナミタララ（Namitalala）幼稚園にはリクニ・パーラが届けられ、給食を途切れることなく提供できる体制が整えられました。Mgwirizano CBOの5つの幼稚園（ムポトラ（Mpotola）、ブウェンバ（Bwemba）、ディエチティ（Dyechiti）、カチメラ（Kachimera）、ナミタララ（Namitalala））では、地域で手に入る材料を使って木製の台を製作しました。すのこ状の台によって小麦粉を湿気や汚れから守るとともに、地域の人々が主体となって給食プログラムを支えていることを示しています。



地域の人々が、リクニ・パーラの小麦粉を湿気や傷みから守るため、木製の台を作っています。

3）給食と衛生管理の改善

ムジンバ（Mzimba）チームでは、スタッフそれぞれの役割を再確認し、連携を強化するための研修を実施しました。食料の配送から記録、保管、調理、提供まで、すべての工程において、一人ひとりが適切な運営を支える役割を担っています。

「せいぼがこのように私たちの学校を支援してくれることは、子どもたちと地域社会の未来への投資にもつながっています。」

― カニェレレ（Kanyerere）小学校 校長

また、せいぼはムジンバLEA校、マチェレチェタ（Machelecheta）、カゼンゴ（Kazengo）、デイビー（Davy）、カニェレレ（Kanyerere）、セント・ポール（St. Paul’s）、カフタ（Kaphuta）の各小学校に、給食や衛生管理に必要な備品を配布しました。
配布したバケツ、カップ、洗面器、調理器具、石けんなどは、衛生的な調理環境の整備、給食の円滑な提供、手洗い習慣の定着に役立っています。



カフタ（Kaphuta）小学校の子どもたちが、せいぼマリアから給食・衛生管理に必要な備品を受け取り、喜んでいます。



せいぼのプログラムマネージャーであるムトゥロ氏（Mr. Mthulo）が、
カニェレレ（Kanyerere）小学校の調理場建設の開始にあたり、重要事項を確認しています。

4）教育支援を長期的に支える仕組みづくり

以前マカプワ（Makapwa）幼稚園に通っていた子どもたちが、現在通っているチメンベ（Chimembe）小学校から訪問し、近況やこれまでの経験を話してくれました。子どもたちが成長し、学び続けている姿からは、幼少期の栄養支援や就学の機会が、その後の教育を受け続けるうえでも大切な役割を果たしていることがうかがえます。

また、カニェレレ（Kanyerere）小学校とチャベレ（Chabere）小学校では、新たな調理場の建設が始まりました。着工に向けて、地域のリーダーや学校関係者、せいぼのスタッフ、施工業者が集まり、それぞれの役割や工事の進め方について話し合いました。
新しい調理場の整備により、学校給食をより安全かつ安定して調理できる環境が整うことが期待されています。

まとめ

9月の活動を通じて、安定した給食プログラムを続けるためには、食事を提供するだけでは不十分であることが改めて示されました。正確な記録管理、食料の安全な保管、スタッフの研修、適切な設備の整備、地域の人々の協力、そして調理場の充実。こうした取り組みが、子どもたちに毎日、安全に食事を届け続けるための大切な基盤となっています。



マカプワ（Makapwa）幼稚園を卒園した子どもたちが、
現在通っているチメンベ（Chimembe）小学校での様子や成長を報告しに来てくれました。

**「食材は一日分の食事を支えます。
子どもたちに毎日食事を届け続けるには、
それを支える強いチームが必要です。」**